

【参考】「BEATCHILD1987公認アプリ」について

Special Thanks!



「あの日、あの時の伝説」

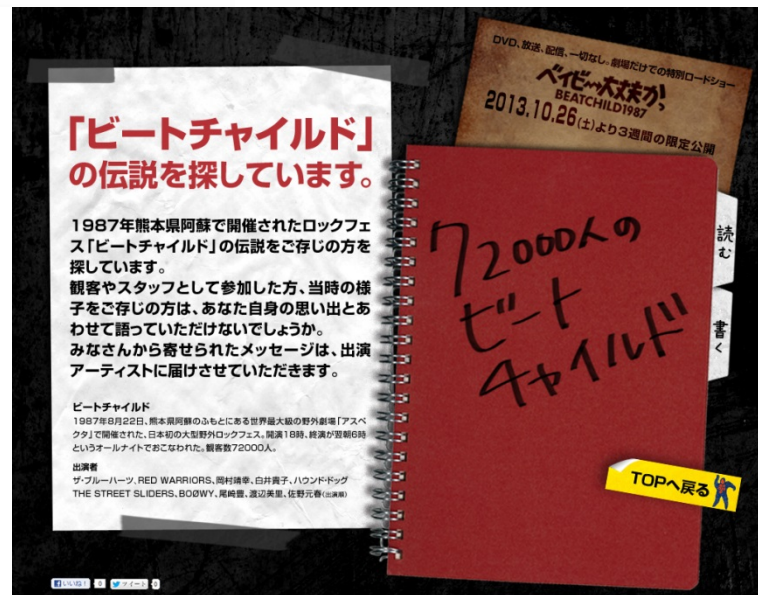


「オリジナルグッズプレゼント」

公認アプリをダウンロードされた方の中から抽選で、
「ベイビー大丈夫かっ BEATCHILD1987」
オリジナルグッズをプレゼント!

Tシャツ (S/M/L・XL) 5名様	スポーツタオル 5名様	缶バッジ (3種入り) 5名様	イオンシネマ 特別御招待券* 5組10名様

*全国のイオンシネマ「ベイビー大丈夫かっ BEATCHILD1987」上映館にてお使い頂けます
※プレゼント詳細についてはアプリをご確認ください



「作品概要」

戻る

佐野元春、BOØWY、ハウンド・ドッグ、尾崎豊、ザ・ブルー・ハーツら、当時の若者たちに絶大なる影響を与えるロックミュージシャンたちが、ひとつのステージに集結し、強烈なメッセージを残した。豪華出演アーティストの累計アルバム販売枚数は4000万枚を超える。「リンダリンダ」「ff(フォルティシモ)」「DREAMIN'」「シェリー」「SOMEDAY」など大ヒットソングの数々が阿蘇山にこだまする。

「まさにあれはウッドストックだった。人間で埋め尽くされた高原は圧巻。」

1987年、夏の阿蘇。快晴の青空の下、当時日本のロックシーンで最高峰のアーティストたちが、翌日から始まる日本のロックの夜明けを予感しながら、熱いハーサルを繰り返していた。事務所やレーベルの垣根を超えてアーティストらが続々と集まる。夕方、雲が姿を現すが、予報では、本番も晴れ。

入口には、すでに前日から客の姿が増え続け、3万人の予定だったチケット販売数はすでに7万枚を超えていた。8月22日当日になると、空港からのタクシー、福岡からのバス、地元の車やバイクが狭い山道を埋め尽くした。開場と同時に、なだらかな「大草原の客席」は10代から30代の若者たちで埋め尽くされる。そこに、突然の豪雨。草原は、一瞬にして泥水で溢れる。

ステージ上のアーティストたち、企画し運営していたスタッフたち、そして7万2千人の観客たちにとっても、歴史的な12時間のオールナイト野外ロックフェスが、未嘗有の大事件の幕開けが、記録的豪雨で始まることは、予想していなかった。

26年前、九州阿蘇は、たしかにロックの聖地となった。FUJI ROCKフェスの、はるか10年前の出来事だった。

※光BOX+への「BEATCHILD1987公認アプリ」(無料)のインストールが必要です。

※オリジナルグッズプレゼントは、アプリダウンロード後、入力フォームに必要事項を記載の上、キャンペーン登録が必要です。